



# ショプロン(ハンガリー)

## 素材研究 (海外)



火の見やぐらを望む町並み



町の居酒屋では気軽にワインが楽しめます



町の終身である中央広場



## 民族と文化の交錯が生んだユニークな歴史 中世の建物がそのまま残る旧市街

中世の面影をそのままに残すショプロン



内部の装飾が見事なエステルハージ宮殿



エステルハージ宮殿。広大な庭も見どころです

JATA「ヨーロッパの美しい村30選」に名前を連ねたショプロンはハンガリー西部にあり、オーストリアと国境を接することなどから、独自の歴史を積み重ねてきました。民族と文化が交錯してきた要衝として、ショプロンのユニークで奥深い魅力が今、注目されています。

### ローマ帝国時代に遡る町の起源

オーストリアとの国境にあるショプロンは、1989年にベルリンの壁崩壊への端緒となった「ヨーロッパ・ピクニック計画」の舞台として世界の耳目を集めたことでも知られています。

ショプロンの起源はローマ帝国時代にまで遡り、旧市街にある「火の見る塔」は、ローマ時代の遺跡の上に建てられています。ハンガリーは16世紀から17世紀にかけて、オスマン帝国に支配された歴史を持ちますが、ショプロンはその支配を免れたことから、ゴシック様式や初期バロック様式の建造物も往時の姿をそのままにとどめ、中世の面影が色濃く漂う旧市街の町並みが残されました。ほぼ楕円形の旧市街は、東西が約500メートル、南北は約300メートルで、かつては市街地を囲んでいた城壁も今はなくなっています。「火の見る塔」や「山

羊協会」などの観光スポットも、中央広場を中心に30分ほどの散策で見回ることができます。

### 中東欧の魅力深掘りへのヒントも

ショプロン近郊のフェルトワードには、ハンガリーの名門であるエステルハージ侯爵家の宮殿があります。18世紀半ばに建設された宮殿では、「交響楽の父」と呼ばれるフランツヨーゼフ・ハイドンもエステルハージ家の宮廷音楽家として仕えていました。現在も、エステルハージ家の当主が住む私邸でもある宮殿ですが、英語やドイツ語でのガイドツアーも行われています。

古くから交通の要衝だったショプロンは、列車で2時間足らずの距離にあるウィーンからの日帰り観光も可能ですが、地元の人々に人気の高いカウンター・バーを持つホテルなどに宿泊して、周辺と併せてじっくりと味わいたいところです。

駐日ハンガリー大使館観光室の勝田基嗣氏は、「紀元2世紀から琥珀街道の中継地点として通商も栄えたショプロンには往時を偲ぶ遺構や遺跡も多く、周囲がブドウ畑で囲まれていることから、旧市街にあるワインバーで名産ワインの飲み歩きも楽しめる」と語り、その多様な側面を強調。「ショプロンに着目することで、中東欧の魅力を深掘りするツアー開発に向けて、ヒントも見つけていただきたい」と期待を示しています。